

車で日高耶馬溪を通り、東口（幌満）からスタートすることをお勧めします。山道は沢をいくつも横切るため、アップダウンが繰り返されます。登山に準じる服装で臨んでください。帰りは、路線バスかタクシーを利用してください。



**山道西口**



沢伝いに国道に出ます。路線バスを使って幌満に戻るには、冬島漁港のバス停までさらに歩きます。

バス停あり

バス停あり

**Area D 日高耶馬溪エリア** ジオサイト **Geosite D4**



**大正時代のトンネル**  
山中トンネル西口から右折すると旧トンネルがあり、付近には明治・大正時代の手掘りトンネルがあります。磯場に立つと東方に日高耶馬溪の断崖絶壁が続きます。

山道を外れ、海側にやや戻ると、日高耶馬溪の断崖を見下ろす場所に出ます。海に浮かぶ岩は、近藤重蔵が李白石と呼んだ「鵜の鳥岩」です。危険ですので、崖には近づかないようにしましょう。

**断崖ポイント**



旧道なので、車をあまり気にせず散策できる。

**コトニ小休所跡**



昔、休息所があった場所ですが、現在は昆布干場となっています。山道はこの西にさらに続きますが、ここから国道に出て終えてもいいでしょう。

沢伝いにしばらく登る。

最も深い沢で、ロープで伝い歩きます。

**原田宿跡**



原田安太郎という人物が明治初期に営んでいた旅籠屋の跡があります。山道の間ですので、ここで弁当を広げるのもいいでしょう。



**山道東口**

幌満橋の下をくぐって50mほど川筋をさかのぼると、東口の階段があります。入林記帳台があるので、かならず記帳しましょう。

**幌満コミュニティセンター**



幌満橋をすぎてすぐを左折すると、旧小学校を活用した幌満コミュニティセンターがあります。ここに車を止めスタートです。

**Area D 日高耶馬溪エリア**

**和助地蔵尊** ジオサイト **Geosite D6**

江戸時代、様似山道の開削に尽力した斉藤和助をまつる地蔵尊。孫の一人は、日本競馬騎手の父と呼ばれた函館大経です。通行の安全をお祈りしましょう。

